

平成 29 年度第 3 回産業振興ビジョン推進委員会会議要旨

実施日：平成 29 年 10 月 30 日 10 時 00 分～12 時 00 分

区分	内容
平成 28 年度産業振興ビジョン実施結果についての意見書について	○意見書案の報告 評価チームの報告を元に評価・点検結果の妥当性について取りまとめを行った。 ○その他意見 ・農業について、地域性を生かした取り組みを進めていかなければならない。具体的にどのような作物を植えたら良いのか、具体的な利益の程度、加工先まで考えて進めていかないと、今後ますます厳しくなっていくと思う。 →地域性に応じた作物の導入について地域の中での議論が進めば支援も可能である。加工については、市内で取り組んでいる場所も出てきている。 ・伝統行事の担い手について、旧村の人口が減り維持が厳しくなっている。農業、祭りに限らず新住民を取り込んでいかなければならない。 →後継者づくり、担い手づくりは大きな課題だ。新しくその地域に住まれた住民の方に京田辺を知ってもらい、関わりを深めていただくよう各事業を推進していく上で意識していきたい。 ・商業観光の分野で民泊の話が出ているが、工業や農業で人が集まらないというのであれば、他の地域を呼び込むことに利用できないか。 →民泊は法律ができ、これから進んでいくこととなる。ただ、現状では対象が観光なのかビジネスなのかはっきりしない部分もある。対象客層のニーズ等も見ながら今後の動きを考えていきたい。 ・京田辺市は物流の拠点に今後なってくると思うが、農業の加工食品をどこかで集約し、どこかの地域に売り込みに行くといったこともできるようになるのではないかな。
各員から推進委員会全体を通しての意見・感想	・新幹線という話もあるが、あと 30 年先、その時どうなっているか是非とも見届けたいと思う。 ・京田辺市には愛着と誇りを持っている。そういう方が多くいればと思うし、そう思えるような街にしていかなければならないと思っている。 ・商売をやっているのだから常に何をしたら売り上げが上がるか、利益が上がるか、ということしか考えていないが、（京田辺市も事業を進めていく上で）やはりそれがないと発展しないと思っている。

	・地域の特産品の話も出て、農業の将来が見えてきたなと感じた。 ・(農業部会だが) このような場で産業、観光までいろいろな知識を得たと思うので、これからも農業だけでなく、産業や観光にも首を突っ込んでいきたい。 ・この産業振興ビジョンの進行管理点検シートに基づき、今後も農業委員や京田辺市の職員の方々と共通の目標を持って新たに農業をする方を見つけていきたいと思う。また、農業された方が「農業やってよかった」という京田辺市の農業の発展に向けて頑張っていきたい。 ・これから何らかの形で変えていかないと今の農業はもたない。また新旧(住民)のマッチングをどうしたらいいのか真剣に考えないと、発展しないだろうと思っている。 ・観光資源が少ないということで、市外の方もさることながら市内の方も観光資源を知らない方がたくさんおられることをつくづく感じている。そして新たな観光資源もこれから作り上げていかなければならないと感じている。 ・農業に関して、どんなものを作ればいいのかという議論がなされていたが、作ることもさることながらどうやって販路を開拓していくのかということも大切で、部会ごとだけで意見を戦わせていてもなかなか足りない部分がある。どうして作り、どのように加工し、最終的にどのようにして売っていくかということをもとめられるような、総合的な議論の場ももっと必要だと考える。 ・京田辺に限らず京都市以外の京都府内の市町村に言えることだが、PR があまり上手で無いと個人的には見ている。歴史的な資源、重厚ないいお祭りがたくさんあるとこの場で改めて勉強させていただいた。外にいと聞こえてこない。 ・地元の方の採用という形の地域貢献、工場見学、中学生の就業体験なども積極的に取り入れさせていただいている。引き続き地域貢献のお役に立てればと思っている。 ・一市民だったがこういう会議に参加させていただき、町作りのチャンスをいただいた。これからも発展を見守っていききたいと思う。 ・工業部門に携わる委員の方もおられ、貴重な意見をいただき、改めて京田辺市の工業部門の今後のあり方、行政とどのように繋げていくとかいろんな発見があった。また今後ともそれぞれがますます発展していくことを願っている。 ・本校の生徒たちも京田辺市をはじめ様々な企業にお世話になり貴重な体験をさせていただいている。これは今後それぞれの地域で地域との繋がりをどのように持つかという教育効果になっていると思う。 ・推進体制の問題がある。誰がこれをやるのかということがはっきりしていない。誰が、という形で書いてしまうとその人がやればいいという形になってしまう。あくまで『誰か』というのは
--	--

	中心であって、関係者同士をどういう形で結びつけるか、そういうファシリテーターを作っていないといけない。行政は是非そういったファシリテーターを見つけ、そういう人をリーダーとした推進体制を構築して行っていただきたい。
--	--